

日本比較文化学会

JACC 比較文化会報

本部 : 〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷1-3

同志社大学言語文化教育研究センター 長谷部陽一郎研究室

事務局 (並びに会報編集) : 〒370-0068 群馬県高崎市昭和町53

新島学園短期大学 高山有紀研究室

会長室 : 〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷1-3 同志社大学文化情報学部 夢告館715

山内信幸研究室

学会HP : <http://www.hikakubunka.jp/>

会長挨拶

日本比較文化学会会長 山内 信幸

このたび、2008年6月に京都大学で開催された第30回日本比較文化学会全国大会の総会において、第5代会長に選出されました山内信幸です。どうかよろしくお願ひ申し上げます。

本学会の前身は、1979年に故芳賀馨先生を中心とした30名ほどの会員が集まって、小規模ながらも学際的な学会を企図して立ち上げられた「東北比較文化学会」に遡ります。今では全国に5支部を有し、450名近くの会員を擁する「日本比較文化学会」として、国際的な展開を目指す学会に成長いたしました。そもそも異なった専門領域を有する研究者が集い、横断的に展開してきた「比較文化研究」ではありましたが、最近では、本学会の存在意義についての学会の認識も大いに深まり、その進展がますます期待される学問領域と見なされるようになりました。本学会が、これからの時代を見据えた活力のある、そして豊かな将来性をもつ学会となるよう、微力ながら全力を尽くす所存です。

新会長としての役回りは、前会長であった太田敬雄先生が3年間のご在任中に蒔いてくださった新しい学会としての「種」をいかに大きく育てていくかであると認識しています。太田先生のご功績は、まず、学会の活性化の一環として、新しい執行部体制を確立させ、会則を含む関連諸規定を整備・制定されたことでした。これによって、新役員のみならず、一般会員の皆様方にとっても、真に開かれた学会の等身大の姿を示すことが可能となりました。また、太田先生は、若い世代の育成とさらなる国際化の推進にも傾注され、その結実として、業績発表の場である、学会誌『比較文化研究』の発行を年5回に拡充され、全国大会と各支部例会活動の一層の充実に努められ、さらに、韓国日本文化学会を含む、海外の関連学会との積極的な交流も積極的に推進してこられました。これらの活動は、HPを通じて国内外に広報され、若手研究者を含む多くの学会関係者の関心を集めることとなりました。

太田先生が示されたこれらの道標をいかに実質化させられるかは、重責を伴う課題ではありますが、幸いにも、特命事項を明示してご就任いただいた副会長、一層の充実に期待される学会誌の編集責任を担っていただく編集委員長、そして活力に溢れる新事務局のメンバーから成る新執行部体制を円滑にスタートさせることができました。

今後、会員の皆様のご理解とご協力を得ながら、日本比較文化学会が会員一人ひとりにとって、有意義な交流と活動の場となるように努力してまいりたいと存じます。学会員の皆様方のお力添えを切にお願いして、新会長のご挨拶とさせていただきます。

《全国大会報告》

第 30 回大会を振り返って

丸橋 良雄（京都大学）

第 30 回大会は、6 月 14 日（土）に京都大学吉田キャンパスを会場として開催されました。蒸し暑い梅雨に入っていたにもかかわらず、当日は百名を超える参加がありました。

午前のシンポジウムでは、「“増殖する”比較文化学」というテーマのもとで、5 支部より推薦された講師の先生方に発言していただきました。各講師の先生方はいずれも一言をお持ちの論客ばかりで、それぞれの研究領域の立場から、鋭い切れ味の指摘をされ、比較文化学への新たな視点を提供していただきました。

午後の総会では、これまで本学会の発展に多大なご尽力いただいた太田前会長に代わって、新会長として山内信幸氏が選出され、新執行部のもとで新たな船出をすることになった旨報告があり、異議なく承認されました。その後講演が行われましたが、従来の慣例に反して、今回は異色ともいえる講師の先生を外部よりお招きしました。かつて祇園甲部で舞妓・芸妓として 20 年もの間看板を張ってこられ、いまや京都を代表する文化人のお一人といっても過言ではない華道家の桐木千寿先生です。講演の演題は、「愛され上手になる 祇園流・女磨き一極上のおもてなし」というなんとも粋なものでした。講演のみ一般公開したこともあり、立ち見の方も入ると優に 150 人を超える大入り満員で、終了後も予定の時間を超えて熱心に質問が出て大盛況でした。講師の先生の知名度のおかげだと思いますが、われわれの学会の開催のことが京都新聞に掲載されました。

講演の余韻が覚めやらぬ中、続いて九つの分科会に分かれて合計 50 件もの研究発表が行われました。可能な限りいろんな研究発表を聞いて回りましたが、おおむねどの教室も会員の方が分散して参加されていて活発に質疑応答が行われていました。午後 6 時半にはすべての研究発表が終了して、懇親会会場であるビアレストランへと移動しました。当日は何かと不行き届きの点があり、会員の皆様にご迷惑をおかけしたことここにお詫び申し上げます。

最後になりましたが、本部事務局、関西支部の大会準備委員会の皆様、当日司会の労を取っていただいた諸先生方、受付等の雑用の手伝いしていただいた同志社大学の学生さん、そして講演を快く引き受けていただいた桐木のおねえさんに、心より厚く感謝申し上げます。「ほんま、おおきに！」

総会報告

前事務局長 佐藤 静

日本比較文化学会・平成 20 年度総会は、平成 20 年 6 月 14 日（土）午前の理事会の議を経て、同日午後 1 時 00 分～1 時 45 分に第 30 回全国大会の会場となった京都大学吉田キャンパス、吉田南 1 号館 3 階の共 311 教室において開催されました。総会の議長は太田敬雄会長が、進行は佐藤（事務局）が担当しました。以下にその概要を報告します。

2007 年度事業報告及び 2007 年度収支決算報告と会計監査の報告があり、承認されました。2008 年度予算案については、全国大会費用の 5 万円増額、「比較文化研究」の中国・四国支部編集担当の追加による増刊（年 5 回）、支部運営補助費（1 万円）の支給、海外学会との交流・訪問のための旅費等について承認されました（会計報告書参照）。

役員改選に伴う次の人事案が承認されました（以下敬称略）。会長は山内信幸・副会長は市川郢康（国際交流担当）・奥村訓代（研究企画担当）・北林利治（会務全般担当）。理事は山内信幸・市川郢康・奥村訓代・北林利治・佐藤和博・佐藤静・野口周一・前田浩・丸橋良雄・山下明昭・南川啓一

・高山有紀・阿部晃直・藤岡克則・八尋春海・長谷部陽一郎・崎村弘文、監事は鈴木瑠璃子・高橋強。また、太田敬雄前会長と栗原靖前副会長が新たに顧問に就任されました。その他、本部・事務局・委員会・部会等の詳細については学会HPをご参照ください。

その他、報告・承認された主な事柄は次のとおりです。来年度の第31回全国大会は九州支部が担当して開催すること（久留米大学）、台湾日本語文学会との交流・提携の推進、生活文化研究部会の設置、ハラスメント内規の承認と施行（平成20年6月14日から）、会員の非行に関する対応方針、科研申請の募集等。

《新役員》

副会長就任の挨拶

副会長（国際交流担当） 市川 郢康

6月に京都大学に於いて開催された第30回日本比較文化学会全国大会で、会長に就任された山内先生のご指名を受けて、このたび副会長の重責を任されることになりました。私は今から20年ほど前、現在顧問をしておられる石黒昭博先生から当学会を紹介していただきました。その直後、京都から九州の久留米大学に赴任になり、立ち上がって間もない九州支部に所属し、当時支部長であられた梅田和郎先生のもと南川、奥村の両先生と九州支部の充実に奔走してきました。その間学問のあり方も随分変化してきました。度重なる異常気象、少子高齢化、混乱する政局、格差社会など、我が国を取り巻く状況は依然として厳しいものがあります。複雑怪奇な現代社会に巻き起こるさまざまな問題に取り組むには、重箱の隅を突くような学問から、学際的な学問への切り替えが大切になってきました。この意味で、海外との学会同士の交流も重要な役割を果たすこととなります。国際交流担当として、微力を尽くす所存ですので、どうぞ会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

副会長（研究企画担当） 奥村 訓代

皆さんこんにちは。この度、副会長を仰せつかりました奥村です。

学会としては、先日、京都で第30回全国大会を盛大かつ無事に終了し、また、一方では韓国をはじめ台湾等、海外の学会との提携も進み、いよいよもってアカデミックで国際的な学会へと脱皮しつつあります。芳賀先生のアットホームでサロニックな「芳賀イズム」と太田先生がお導きになった人道主義的な「ヒューマニズム」とそして今ここに山内会長のアクティブな「行動主義」が融合されようとしています。このような時期に皆様とともに、日本比較文化学会の運営にかかわれることを幸せに感じております。今後ともご支援・ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

副会長（会務全般担当） 北林 利治

このたび、副会長に就任いたしました北林利治です。日本比較文化学会に入会したのは、22年前になります。初めて全国大会で発表をさせていただく機会をえて、前日は緊張で一睡もできなかったことを覚えています。そして、時はながれ、この間発展してきた日本比較文化学会の歴史に思うとき、副会長としての責任の重大さを実感しております。

入会以来、多くの会員の先生方との出会いを通して、学問的刺激を受けてきました。会員それぞれの領域を越えてお互い学び合うという段階から、いまは、日本比較文化学会がめざす新しい学問領域の構築への高まりを感じています。このような新しい学問領域ができるまさに同じ時代に立ち会えるのは幸運なことです。本学会がますます発展するために、新会長の山内先生を全面的に支えていく所存ですので、会員の諸先生方、どうぞ、よろしくお願いいたします。

2007 年度日本比較文化学会決算表(2008 年 3 月 31 日)

科 目	2007 年度予算	2007 年度決算	摘 要
I 収入の部			
1、資産運用収入			
利子	50	3,766	郵便貯金利子
2、会費収入			
一般会員	1,830,000	1,935,000	
賛助会員	10,000	10,000	HP 研究所
3、事業収入			
『比較文化研究』売り上げ	0	9,000	4 冊 + 送料分
4、寄付収入			
寄付収入	0	0	
5、その他			61,740 円 投稿料口座入金(*)
当期収入合計(A)	1,840,050	1,957,766	
II 支出の部			
1、大会開催関連費			
第 30 回大会費	300,000	300,000	関西支部へ
第 30 回大会・海外会員補助	50,000	50,000	(同)
		12,000	第 29 回大会・海外会員懇親会補助費
		34,377	第 30 回大会・発表募集要項発送費
2、支部大会開催費			
支部合同大会補助費	0	0	
3、『研究』発行費			
編集補助費	500,000	500,000	4 支部 + 特集号
発送費	360,000	61,800	関西支部へ
4、会報編集費			
編集補助費	20,000	0	
5、管理費			
事務局費	100,000	3,680	事務局文具購入費等
交通費	100,000	46,010	監査旅費
通信費	20,000	6,100	切手、EXPAC 等
事務費	20,000	30,000	名簿・会費管理費
会議費	400,000	0	
印刷費	10,000	1,100	会費払込用紙印刷費
HP管理維持費	50,000	45,150	
会費(学術会議他)	30,000	0	
手数料(振込み等)	50,000	6,405	銀行振込み手数料
		27,510	会費口座払込料金
その他		752	税金(郵便貯金)
			61,740 円 投稿料口座支出(*)
6、予備費	100,000	56,500	投稿料欠損金
		5,000	二重払い会費返納
当期支出合計(B)	2,110,000	1,186,384	
当期収支差額(A) - (B)	-269,950	771,382	
前期繰越額(C)	2,759,574	2,759,574	
次期繰越額(A) - (B) + (C)	2,489,624	3,530,956	

* 口座一時使用、学会会計処理外

2008 年度日本比較文化学会予算		
科 目	2008 年度予算	摘 要
I 収入の部		
1、資産運用収入		
利子	3,700	
2、会費収入		
一般会員	1,940,000	
賛助会員	10,000	
3、事業収入		
『比較文化研究』配布収入	10,000	
4、寄付収入		
寄付収入	0	
5、その他		
当期収入合計(A)	1,963,700	
II 支出の部		
1、大会開催関連費		
第 31 回大会費	350,000	
第 31 回大会・海外会員補助	50,000	
2、支部運営補助費		
支部運営補助費	50,000	
3、『研究』発行費		
編集補助費	500,000	
発送費	360,000	
4、会報編集費		
編集補助費	20,000	
5、管理費		
事務局費	50,000	
交通費	100,000	
通信費	20,000	
事務費	30,000	
会議費	400,000	
印刷費	10,000	
HP管理維持費	50,000	
手数料(振込み等)	35,000	
その他		
6、予備費		
当期支出合計(B)	2,325,000	
当期収支差額(A) - (B)	-361,300	
前期繰越額(C)	3,530,956	
次期繰越額(A) - (B) + (C)	3,169,656	

良質な研究者を育てるための研究誌を目指して

編集委員長 野口 周一

私が日本比較文化学会に関わり始めたのは、前任校である新島学園女子短期大学に着任した21年前のことであった。そこには、前会長の太田敬雄先生が自らの教育理念を積極的に実践され、新会長の山内信幸先生はブルドーザーのように学問と教育に情熱を傾けていらっしゃった。

私は、芳賀薫先生を中心とする本学会の香気に魅了されつつも、自分の研究とは一線を画していた。なぜなら、それは私の所属していた学会のスタイルと大きな隔たりがあらゆる面であったからである。その学会の実証的な精緻な研究が悪いわけではなく、私もその中ではぐくまれてきていた。しかし、私は違和感を覚えていた。それは、言葉は悪いが「ネバ納豆の世界」からメイフラワー号に乗って新世界を望んだ人々の気持ちであったといっても過言ではなかった。

少し前のことであるが、編集長が太田会長（当時）に投稿論文の専門分野該当者が見当たらないため、学外者への査読を依頼するつもりであると問い合わせられたところ、「この学会の本来のあり方は、投稿論文を『審査』して落とすのではなく、少しでも良質なものにするために『助言』をしていくことにある」という意味のことをお話になられた、と耳にした。

その太田先生のお考えは、私の胸のなかにすーっとはいり、私は非常に落ち着いた気持ちになった。それこそが、芳賀・太田両先生のお考えであり、私が編集委員長として堅持すべき姿勢であると理解した次第である。

《事務局より》

2年間太田前会長を支え、学会の新しい体制を築いてくださった佐藤静前事務局長の後を受け、新事務局がスタートいたしました。高山有紀（事務局長：会計担当）、長谷部陽一郎（副事務局長：総務担当）、金志佳代子（事務局員）で連携し、学会事務にあたっております。佐藤先生の緻密で配慮の行き届いたお仕事に学ばせていただきながら、東西で若い力を合わせ、山内会長をもり立ててまいります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

○会費納入のお願い

会費の納入にいつもご協力いただき感謝いたします。3年を超えて未納の場合には会員資格を失うこととなりますのでご注意ください。なお、今月（8月）会費を納められた方については、行き違いになっておりますがご容赦ください。自分が納入したかどうか不確実な場合には、事務局（高山）までお問い合わせください。

会費納入の郵便振替口座番号：02570-6-8921 加入者名：日本比較文化学会
振り込みの際には、所属支部と何年度分の会費であることを明記してください。

《支部報告》

東北支部

*東北支部大会

2008年9月27日（土）、14:00～17:00（受付 13:30）、弘前学院大学（4号館1階 第三会議室）において東北支部大会を開催します。問合先は、佐藤和博（0172-34-5212-453: sato@hirogaku-u.ac.jp）。

なお、研究発表者を募集しております。締め切り8月末日。A4で1枚以内の発表要旨を添えて支部長まで申し込んで下さい。

*東北支部・関東支部合同発表会のご案内

2008年11月22日(土)、14:00~17:00、弘前学院大学(4号館1階 第三会議室)において関東支部との合同発表会を行います。

こちらにも研究発表者を募集しております。締め切り10月末日。A4で1枚以内の発表要旨を添えて支部長まで申し込んで下さい。

支部長 佐藤和博

関東支部

*第16回研究発表会 2008年3月23日(日)、於国立オリンピック記念青少年総合センター

・総会支部

2007年度の支部総会が開催され、以下の支部役員が選出されました。

支部長 野口周一(湘北短期大学)、

副支部長 小林俊哉(新島学園短期大学)・前田 浩(新島学園短期大学)

会計 高山有紀(新島学園短期大学)

会計監査 佐藤公彦(エスパスコポーレーション)

幹事 鈴井宣行(創価大学)・山本 浩(上智大学)・小幡剛隆(愛知医科大学)

事務局 高山有紀

・研究発表

1、三井真紀(九州ルーテル学院大学)

「多文化社会における保育者養成 - FINLAND の事例から -」

2、藤咲多恵子(文教大学(非))、水島孝司(南九州短期大学)

「大学生の英語学習開始時期及び取得資格に関する研究 - 実態調査の結果報告を中心に -」

3、野口周一(湘北短期大学)「社会教育者・永杉喜輔の生涯」

・講演

太田敬雄会長「多文化交流の基本理念と実際」

* 第17回研究発表会のご案内

2008年9月6日(土)、上智大学四谷キャンパス(11号館205教室)において、研究発表会を開催します。発表予定者とタイトルは以下のとおりです。

岡本さだこ(青山学院大学)「Emily Dickinson の諦念と現代的意味」

鈴井宣行(創価大学)

「『開発』と文化的アイデンティティの深層構造—セネガルにおける女性の経済活動領域から—」

* 東北支部・関東支部第2回合同発表会(第18回関東支部研究発表会)のご案内

2008年11月22日(土)、弘前学院大学において東北支部との合同研究発表会を開催します(東北支部の項もご参照ください)。現在、発表希望者を募集しております。関東支部会員は10月15日までに、支部事務局までお申し込みください。

支部長 野口周一

関西支部

関西支部では前回の会報でご報告した10月例会、12月例会に引き続き、3月例会を開催して2008年度の活動を締めくくりました。講演では京都ゑびす神社宮司の中川久公先生をお迎えして、京都の伝統文化についてお話ししていただきました。雅楽の実演も交えたお話に出席者一同は大いに魅了さ

れ、普段何気なく暮らしている京都の豊かな伝統に改めて目を向ける機会となりました。関西支部では今後ますます活発な支部活動を行ってまいります。

3月例会

日時：2008年3月8日(土) 午後2時45分～5時

場所：同志社大学今出川キャンパス講武館104番教室

プログラム

I 研究発表

飯田未希 (立命館大学政策科学部非常勤講師)

「少女マンガと批評理論」

長谷部陽一郎 (同志社大学言語文化教育研究センター専任講師)

「〈分ける〉とは何か—分類の認知言語学」

II 講演

中川久公 (京都ゑびす神社宮司)

「京都の伝統文化と雅楽」

支部長 山内 信幸

中・四国支部

中・四国支部の昨秋以降の活動内容は以下のとおりです。

- 1 3支部会への参加
- 2 20年度計画を支部幹事会で決定
- 3 「日本語・日本文化研究部会」と協力し、学会誌NO.81号の出版

支部長 奥村 訓代

九州支部

今後の予定

*11月29日(土) 午後1時～ 第5回関西・中四国・九州3支部合同研究会

会場校：九州大学(大橋キャンパス)

*平成21年3月14日(土) 第21回九州支部大会

会場校：福岡医療短期大学

*平成21年6月13日(土) 第31回全国大会

会場校：久留米大学(御井キャンパス) シンポジウムのテーマ：「非都市の文化」

支部長 市川 郢康

《編集後記》

本号は、山内新会長以下新役員のご挨拶と、全国大会の報告を中心に編集いたしました。今後は、会員からの投稿などの受け付けも検討してまいりたいと思います。HP等を通じて呼びかけた折には、是非原稿をお寄せください。(高山記)